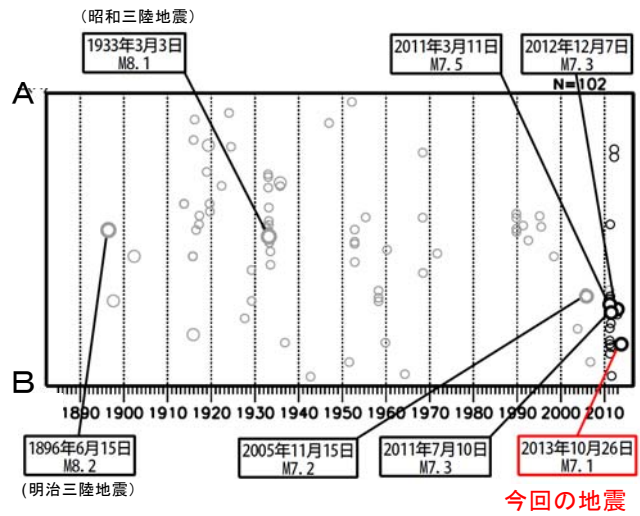
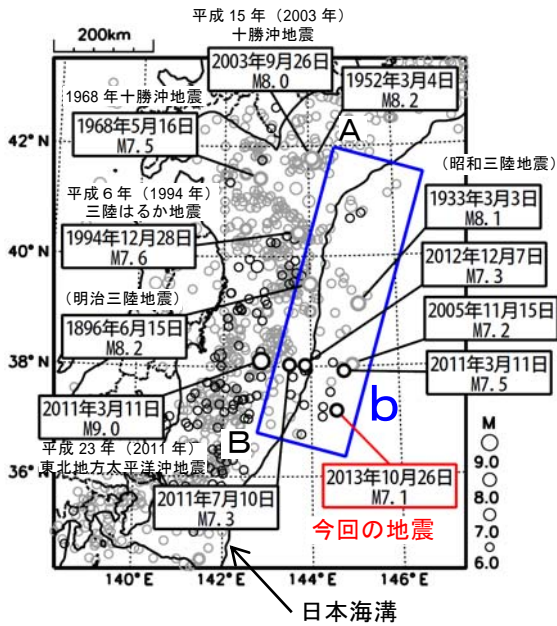


ウ. 過去の地震活動

震央分布図及び領域 b 内の時空間分布図 (A-B 投影) (1885 年 1 月 1 日~2013 年 10 月 31 日、深さ 0~100km、M 6.0) 東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を濃く表示 (震源要素は、1885 年~1922 年は宇津 (1982、1985)、茅野・宇津 (2001) による。)



領域 b 内の M-T 図

1885 年以降の活動を見ると、東北地方太平洋沖地震の発生以前、十勝沖から福島県沖までの日本海溝付近 (領域 b) では、M6.0 以上の地震がしばしば発生している。

1896 年 6 月 15 日に海溝軸の西側で M8.2 の地震 (最大震度 3~2 相当**、明治三陸地震) が発生した。この地震により津波が発生し、北海道から三陸の沿岸で死者 20,000 人超の大きな被害が生じた。津波の最大の高さは岩手県綾里湾の 38.2m (平均海水面からの高さ) である。また、1933 年 3 月 3 日に海溝軸の東側で M8.1 の地震 (最大震度 5、昭和三陸地震) が発生した。この地震により津波が発生し、北海道から三陸の沿岸で死者・行方不明者 3,000 人を超える大きな被害が生じた。津波の最大の高さは、岩手県綾里湾の 28.7m (平均海水面からの高さ) である (津波の高さ及び被害は「最新版 日本被害地震総覧」による)。

※宇津徳治, 日本付近の M6.0 以上の地震及び被害地震の表: 1885 年~1980 年, 東京大学地震研究所彙報, 56, 401-463, 1982
 宇津徳治, 日本付近の M6.0 以上の地震及び被害地震の表: 1885 年~1980 年 (訂正と追加), 東京大学地震研究所彙報, 60, 439-642, 1985
 茅野一郎・宇津徳治, 日本の主な地震の表, 「地震の辞典」第 2 版, 朝倉書店, 2001, 657pp

** 最大震度については、地震報告 (中央気象台) による。なおこの期間の震度は、微・弱・強・烈の階級で記載してあるので、これに対応する震度を、現在の震度階級に相当する震度で表現した。